

商工会議所 L O B O（早期景気観測）

—平成14年6月調査結果—

（平成14年7月2日）

○調査期間：平成14年6月19日～25日

○調査対象：全国の399商工会議所が2588業種組合等にヒアリング
（内訳）建設業 385 製造業 632 卸売業 232
小売業 743 サービス業 596

○調査項目：今月の売上・採算・業況等についての状況（D I値を集計）
及び、業界として当面する問題等

※ D I値について

D I値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I =（増加・好転などの回答割合）－（減少・悪化などの回答割合）
業況・採算：（好転）－（悪化） 売上：（増加）－（減少）

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL:03-3283-7844、7843
E-Mail:sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は日商ホームページ (<http://www.jcci.or.jp>)でもご覧になれます。

【平成14年6月調査結果のポイント】

業況は2カ月振りに^{少し}わずかに改善も、依然として水準低く、^{許さず}楽観はできない状況

- 6月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（▲50.4）よりマイナス幅が2.3ポイント縮小して▲48.1となった。前月、わずかながらも拡大したマイナス幅は再び縮小に転じ、DI値の水準はマイナス40台を回復した。業種別の業況DIをみると、サービスを除く^{業以外の}4業種でマイナス幅が縮小し、特に製造業は平成13年5月以来のマイナス40台となった。一方、サービス業は、前月に引き続き、2カ月連続してマイナス幅が拡大した。DI値は、マイナス幅が再び縮小したが、その水準は依然として低く、また、企業間競争の激化による先行き不安感や消費意欲の低迷を訴える声も相変わらず多数寄せられており、景気の先行きは楽観できない。

建設業では、一部で「公共事業の前倒し発注により活性化」（一般工事）、「建築確認件数が若干上向き」（建築工事）との前向きな声が聞かれるものの、多くは、引き続き「公共事業自体の予算縮減で絶対量が減少し厳しい」（建築工事・一般工事）状況におかれている。このため、「民間工事の発注増加を検討している」（一般工事）ものの、「受注競争が激化し、受注単価の下落」（一般工事）を招くなど、依然として厳しい状況にある。

製造業では、「輸出の回復基調により電子部品に明るい兆し」、「情報通信などの受注が一部回復」（金属製品製造）、「半導体設備関係に動きあり」（金属素形材製品）、「DVD、パソコン関連が好調」（電子部品製造）と、業況好転に関するコメントが散見されており、こうした動きを受けて、「残業時間が増加」（電気機械製造）、「従業員増の動き・パートに不足感」（金属製品製造・電気機械製造）といった声も聞かれはじめた。しかしながら、依然として「短納期、小受注が多い」（金属加工、ねん糸製造）、「単価引下げ要求が厳しい」（電気機器製造・輸送用機器製造・鉄素形材製造）など企業収益を圧迫する要因が多く、先行きは楽観できる状況とはいえない。

卸売業では、引き続き、「消費低迷により厳しい状況」（家具・建具卸売、衣服・日用品卸売、農畜産水産物卸売）との声が多く寄せられている。また、食品の安全問題に関し、「無認可の香料使用問題による商品回収」、「食の安全に関する不安感の広がり」（食料・飲料卸売）が売上に悪影響を及ぼすとの声も聞かれる。

小売業では、「発泡酒や夏物など、今後の天候次第では期待がもてる」（各種商品小売、百貨店）との声も聞かれるものの、「ボーナスや賃金ダウンが消費意欲を低迷」（百貨店）、「日常生活に必要なもの以外は購入せず」（商店街）と、厳しい消費動向を訴える声は依然として多い。ワールドカップが始まり、特に日本戦が行われた日は「入店数激減により売上に影響」（商店街、百貨店）との指摘も多く寄せられた。

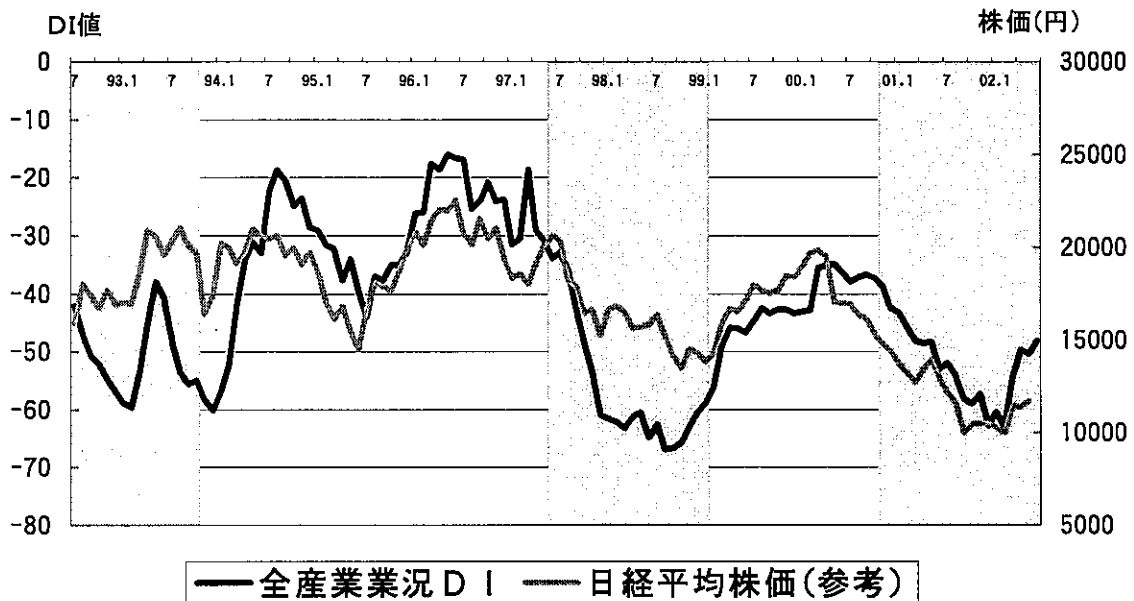
サービス業においても、引き続き、消費低迷による影響を憂う声が多く、「利用客、客単価ともに減少」（旅館、酒場・ピアホール、食堂・レストラン）、「団体旅行シーズンも低迷」（旅館）との指摘が寄せられている。また、「業者間競争が激化」（旅館、自動車整備、すし店、理容、情報処理サービス）との声も依然として多い。ワールドカップ関連の指摘も比較的多く寄せられているが、一部の「スポーツカフェ」等で「好影響」（飲食店）とするほかは、「宿泊客減少」（旅館）、「期間中は客数減少」（一般飲食店、食堂・レストラン）と、総じてマイナス効果を指摘する声が多い。

売上面では、前月水準と比較して、卸売で横ばい、小売、サービスでマイナス幅が拡大したものの、建設と製造でマイナス幅が縮小し、全産業合計の売上DIは、

▲42.0と、3月以降、4カ月連続でマイナス幅の縮小となった。4カ月連続の減少は、平成11年1月～4月以来3年2カ月ぶり。採算面では、前月に引き続き、小売、サービスでマイナス幅が若干拡大したものの、建設、製造、卸売で改善が見られたことから、全産業合計の採算DIは、4カ月連続でマイナス幅が縮小し、▲43.9となった。

- 向こう3ヵ月(7月～9月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI(今月比ベース)が▲36.7と、昨年同時期の先行き見通し(▲46.5)と比べて上向いている。
- 景気に関する声、当面する問題としては、公共事業の削減や消費不振による先行き不安感のほか、今月はワールドカップ関連のコメントが目立っている。

《参考》過去10年間の全産業・業況DI値の推移



【業況についての判断】

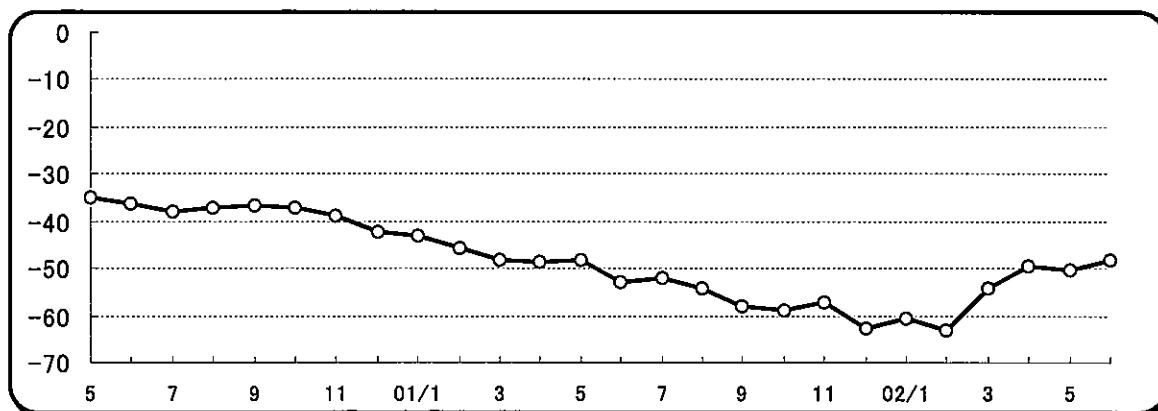
- 6月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（▲50.4）よりマイナス幅が2.3ポイント縮小して▲48.1となった。前月、わずかながらも拡大したマイナス幅は再び縮小に転じ、DI値の水準はマイナス40台を回復した。
- 向こう3ヵ月（7月～9月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が▲36.7と、昨年同時期の先行き見通し（▲46.5）と比べて上向いている。

業況DI（前年同月比）の推移

	14年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7～9月
全産業	▲ 60.4	▲ 63.1	▲ 54.4	▲ 49.7	▲ 50.4	▲ 48.1	▲ 36.7 (▲ 46.5)
建設	▲ 69.1	▲ 69.0	▲ 64.7	▲ 67.7	▲ 66.7	▲ 61.6	▲ 56.5 (▲ 56.8)
製造	▲ 64.4	▲ 65.1	▲ 59.0	▲ 53.6	▲ 53.8	▲ 48.5	▲ 34.0 (▲ 52.3)
卸売	▲ 68.2	▲ 70.9	▲ 62.8	▲ 58.4	▲ 58.1	▲ 52.1	▲ 35.5 (▲ 43.0)
小売	▲ 52.9	▲ 59.6	▲ 49.4	▲ 41.9	▲ 42.7	▲ 41.1	▲ 31.9 (▲ 41.1)
サービス	▲ 55.9	▲ 58.2	▲ 44.6	▲ 39.2	▲ 41.8	▲ 45.8	▲ 33.1 (▲ 40.9)

※「先行き見通し」は当月に比へた向こう3ヵ月の先行き見通しDI
（ ）内は昨年4月の先行き見通しDI<以下同じ>

≪業況DI（全産業・前年同月比）の推移≫



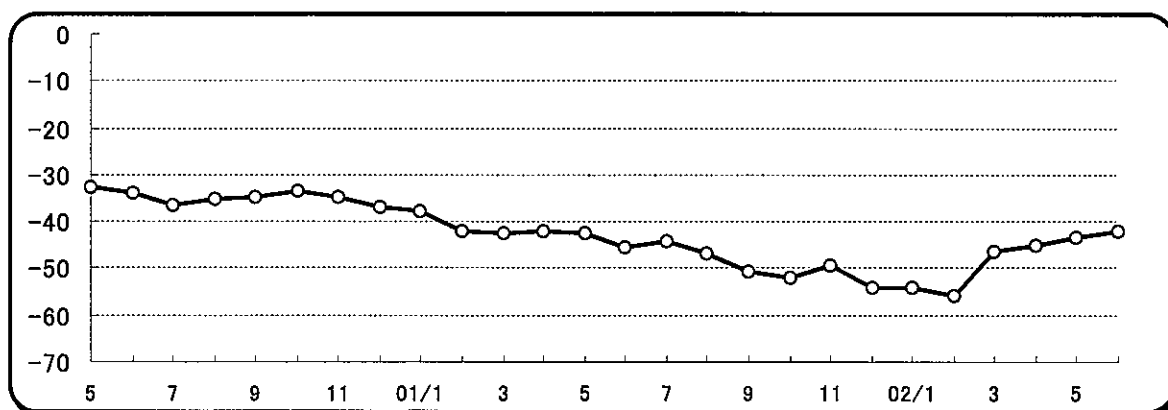
【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

- 売上面では、前月水準と比較し、卸売で横ばい、小売、サービスでマイナス幅が拡大したものの、建設と製造でマイナス幅が縮小し、全産業合計の売上D Iは、▲42.0と、3月以降、4カ月連続でマイナス幅の縮小となった。4カ月連続の減少は、平成11年1月～4月以来3年2カ月ぶり。
- 向こう3ヵ月（7月～9月）の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I（今月比ベース）が▲29.5と、昨年同時期の先行き見通し（▲39.0）に比べて明るい見方となっている。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	14年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7～9月
全産業	▲ 53.9	▲ 56.0	▲ 46.5	▲ 45.2	▲ 43.2	▲ 42.0	▲ 29.5 (▲ 39.0)
建設	▲ 63.6	▲ 62.8	▲ 56.0	▲ 60.6	▲ 60.7	▲ 56.5	▲ 46.7 (▲ 46.6)
製造	▲ 59.6	▲ 60.6	▲ 52.3	▲ 48.6	▲ 47.7	▲ 40.0	▲ 29.4 (▲ 44.7)
卸売	▲ 63.1	▲ 62.3	▲ 58.3	▲ 56.5	▲ 45.6	▲ 45.6	▲ 26.0 (▲ 37.0)
小売	▲ 45.2	▲ 50.8	▲ 39.4	▲ 40.4	▲ 37.1	▲ 38.7	▲ 25.0 (▲ 34.7)
サービス	▲ 47.9	▲ 49.9	▲ 37.0	▲ 32.4	▲ 32.5	▲ 37.0	▲ 25.2 (▲ 33.2)

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



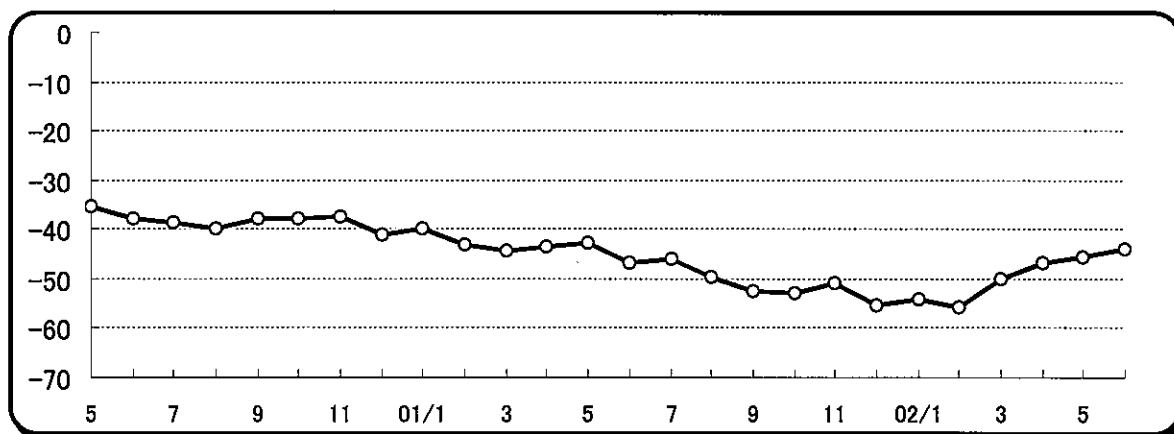
【採算の状況についての判断】

- 採算面では、前月に引き続き、小売、サービスでマイナス幅が若干拡大したものの、建設、製造、卸売で改善が見られたことから、全産業合計の採算D Iは、4カ月連続でマイナス幅が縮小し、▲43.9となった。
- 向こう3ヵ月(7月～9月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月比ベース)が▲32.9で、昨年同時期の先行き見通し(▲40.2)と比べて、明るい見方となっている。

採算D I (前年同月比) の推移

	14年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7～9月
全産業	▲54.0	▲55.9	▲49.9	▲47.0	▲45.7	▲43.9	▲32.9 (▲40.2)
建設	▲69.1	▲65.0	▲64.7	▲61.6	▲62.1	▲60.5	▲50.0 (▲52.7)
製造	▲60.4	▲61.3	▲54.2	▲55.8	▲51.6	▲44.8	▲32.0 (▲44.7)
卸売	▲57.3	▲61.6	▲53.2	▲54.0	▲47.5	▲42.0	▲29.0 (▲38.8)
小売	▲43.1	▲48.5	▲44.1	▲36.0	▲36.3	▲37.0	▲27.9 (▲35.1)
サービス	▲48.5	▲50.6	▲40.2	▲38.4	▲38.9	▲41.2	▲30.1 (▲33.2)

≪採算D I (全産業・前年同月比) の推移≫



(参考)

資金繰りD I (前年同月比) の推移

	14年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7~9月
全産業	▲ 41.2	▲ 42.7	▲ 41.1	▲ 37.9	▲ 36.3	▲ 34.5	▲ 29.7 (▲ 29.9)
建設	▲ 45.7	▲ 49.3	▲ 49.3	▲ 50.9	▲ 46.7	▲ 44.8	▲ 45.1 (▲ 40.7)
製造	▲ 48.2	▲ 49.3	▲ 49.0	▲ 48.2	▲ 43.3	▲ 41.6	▲ 33.4 (▲ 34.8)
卸売	▲ 43.0	▲ 40.6	▲ 37.0	▲ 37.1	▲ 33.3	▲ 30.7	▲ 21.8 (▲ 29.2)
小売	▲ 32.3	▲ 37.4	▲ 32.4	▲ 25.1	▲ 25.3	▲ 24.4	▲ 23.2 (▲ 24.9)
サービス	▲ 37.7	▲ 36.0	▲ 36.6	▲ 30.0	▲ 33.4	▲ 30.7	▲ 26.2 (▲ 22.4)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】すべての業種で悪化超感が弱まる。

【先行き見通しD I】製造、卸売、小売で、昨年同時期に比べ悪化超感弱まる。他の2業種は、悪化超感が強まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比) の推移

	14年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7~9月
全産業	3.7	2.1	3.2	0.9	1.0	0.7	▲ 1.2 (▲ 0.5)
建設	1.5	2.6	4.7	▲ 1.8	1.1	1.8	▲ 0.7 (1.0)
製造	▲ 3.1	▲ 5.0	▲ 2.2	▲ 5.5	▲ 5.9	▲ 4.9	▲ 7.7 (▲ 6.1)
卸売	14.7	11.3	13.5	9.4	8.2	4.8	1.2 (▲ 1.2)
小売	11.4	8.7	8.0	8.3	8.4	8.3	5.3 (7.5)
サービス	▲ 1.3	▲ 1.8	▲ 2.1	▲ 3.0	▲ 3.5	▲ 5.2	▲ 3.2 (▲ 5.7)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】卸売、小売、サービスの3業種で、下落超感が弱まる。

【先行き見通しD I】建設、製造、小売で、昨年同時期に比べ、下落超感弱まる見通し。

従業員D I（前年同月比）の推移

	14年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7～9月
全産業	▲ 19.3	▲ 19.4	▲ 18.6	▲ 17.6	▲ 17.2	▲ 15.6	▲ 13.6 (▲ 14.4)
建設	▲ 34.5	▲ 36.5	▲ 35.8	▲ 35.3	▲ 36.8	▲ 36.7	▲ 32.2 (▲ 28.1)
製造	▲ 30.2	▲ 27.7	▲ 26.8	▲ 26.4	▲ 23.2	▲ 21.8	▲ 18.3 (▲ 18.7)
卸売	▲ 24.2	▲ 21.9	▲ 21.8	▲ 21.1	▲ 20.6	▲ 16.0	▲ 11.9 (▲ 16.3)
小売	▲ 8.1	▲ 9.8	▲ 6.9	▲ 6.8	▲ 6.4	▲ 3.7	▲ 4.0 (▲ 11.1)
サービス	▲ 8.1	▲ 8.9	▲ 10.7	▲ 7.7	▲ 8.9	▲ 8.9	▲ 7.7 (▲ 2.5)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比D I】 サービスが横ばいのほか、残る4業種で若干ながらも過剰超感が弱まる。

【先行き見通しD I】 建設、サービスを除く3業種で、昨年同時期に比べ、過剰超感が弱まる見通し。

【平成14年6月の景気キーワード】

○ 先行き不透明感

今月も、今後の業況に関する不透明感から、先行きへの不安を指摘する声が多く寄せられている。建設業からは、「大手参入による競争激化、単価下落に加え、住宅建設における需要減退が心配」（帯広・建築工事）、「業界として、入札制度、経営破綻、金融問題等に直面しており、この1～2年が正念場」（函館・土木工事）といった声が、製造業からは、「米国の景気次第で、秋以降失速の恐れ」（甲府・電気機械）、「コスト競争が激しく、採算が悪化する一方」（下館・金属素形材製品）などの声が寄せられている。また、卸売業・小売業・サービス業からは、「景気の底入れ感の実感は今もなし」（小野・その他卸売）、「価格競争激化により粗利が減少し、資金繰りも悪化の見通し」（江津・百貨店）、「不況の長期化、新規飲食店の開業により客数減」（赤穂・喫茶店）などの声が寄せられている。

○ 企業間格差

業況D1のマイナス幅の縮小に伴い、一部ではあるが、業況好転の兆しを指摘する声が散見されており、「14年度予算の執行が始まり、受注増」（厚木・一般工事）、「輸出回復と在庫調整進展により電子部品に明るい兆し」（金沢・金属製品製造）、「入店客数が好調に推移」（倉敷・百貨店）などのコメントが見られた。しかし一方で、業種・地域を問わず厳しい業況を訴える声は依然として多く、「仕事の取り合い、値段の叩き合いになっている」（西宮・建設用金属製造）、「短納期・小受注で採算取れない」（加茂・金属加工機械）、「個人消費動向は依然厳しく、客単価の下落傾向で景気回復の兆しなし」（観音寺・商店街、別府・百貨店）などの指摘が寄せられている。

○ ワールドカップ

今月は、ワールドカップ開催に関するコメントが多数寄せられた。一部で「ワールドカップ関連商品の特需あり」（福島、長野、堺・百貨店）、「テレビ設置の飲食店では売上増」（川崎・食堂・レストラン）と明るい声も聞かれたが、総じて、「日本戦の試合日は客足が途絶える」（宇都宮・繊維品卸売、静岡・商店街、川越、京都・百貨店、銚子・商店街）、「テレビ観戦の影響で客数減少」（下田・旅館、食堂・レストラン、姫路・一般飲食店）、「観戦者の宿泊あるも、当初予想より少なく、期待外れ」（静岡・旅館）と、マイナス効果を指摘する声が目立った。

【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
14年 4月	先行き不透明感	倒産・廃業	気温上昇
5月	先行き不透明感	「景気底入れ感」なし	天候の影響
6月	先行き不透明感	企業間格差	ワールドカップ

※景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関する自由回答をまとめたもの。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	<p>業況DⅠは5ポイント改善し、マイナス60台前半へ。売上・採算DⅠは、いずれもマイナス幅が縮小。一部で「公共事業の前倒し発注により活性化」（一般工事）、「建築確認件数が若干上向き」（建築工事）との前向きな声が聞かれるものの、多くは、引き続き「公共事業自体の予算縮減で絶対量が減少し厳しい」（建築工事・一般工事）状況におかれている。このため、「民間工事の発注増加を検討している」（一般工事）ものの、「受注競争が激化し、受注単価の下落」（一般工事）を招くなど、依然として厳しい状況にある。</p>
製 造	<p>業況DⅠは、平成13年5月以来のマイナス40台を回復。売上・採算DⅠもいずれもマイナス幅が縮小。「輸出の回復基調により電子部品に明るい兆し」、「情報通信などの受注が一部回復」（金属製品製造）、「半導体設備関係に動きあり」（金属素形材製品）、「DVD、パソコン関連が好調」（電子部品製造）と、業況好転に関するコメントが散見されており、こうした動きを受けて、「残業時間が増加」（電気機械製造）、「従業員増の動き・パートに不足感」（金属製品製造・電気機械製造）といった声も聞かれはじめた。しかしながら、依然として「短納期、小受注が多い」（金属加工、ねん糸製造）、「単価引下げ要求が厳しい」（電気機器製造・輸送用機器製造・鉄素形材製造）など企業収益を圧迫する要因が多く、先行きは楽観できる状況とはいえない。</p>
卸 売	<p>業況DⅠは3月以降4カ月連続でマイナス幅が縮小。売上DⅠは前月比横ばいで推移。採算DⅠは前月に引き続きマイナス幅が縮小。引き続き、「消費低迷により厳しい状況」（家具・建具卸売、衣服・日用品卸売、農畜産水産物卸売）との声が多く寄せられている。また、食品の安全問題に関し、「無認可の香料使用問題による商品回収」、「食の安全に関する不安感の広がり」（食料・飲料卸売）が売上に悪影響を及ぼすとの声も聞かれる。</p>
小 売	<p>前月、マイナス幅がわずかに拡大した業況DⅠは、再びマイナス幅が縮小。売上・採算DⅠは、ともにわずかながらマイナス幅が拡大。「発泡酒や夏物など、今後の天候次第では期待がもてる」（各種商品小売、百貨店）との声も聞かれるものの、「ボーナスや賃金ダウンが消費意欲を低迷」（百貨店）、「日常生活に必要なもの以外は購入せず」（商店街）と、厳しい消費動向を訴える声は依然として多い。ワールドカップが始まり、特に日本戦が行われた日は「入店数激減により売上に影響」（商店街、百貨店）との指摘も多く寄せられた。</p>
サービス	<p>業況・売上・採算DⅠとも、前月に続き2カ月連続でマイナス幅が拡大。引き続き、消費低迷による影響を憂う声が多く、「利用客、客単価ともに減少」（旅館、酒場・ビアホール、食堂・レストラン）、「団体旅行シーズンも低迷」（旅館）との指摘が寄せられている。また、「業者間競争が激化」（旅館、自動車整備、すし店、理容、情報処理サービス）との声も依然として多い。ワールドカップ関連の指摘も比較的多く寄せられているが、一部の「スポーツカフェ」等で「好影響」（飲食店）とするほかは、「宿泊客減少」（旅館）、「期間中は客数減少」（一般飲食店、食堂・レストラン）と、総じてマイナス効果を指摘する声が多い。</p>

(参考)

【ブロック別概況】

- ブロック別の業況DI（前年同月比ベース）をみると、全産業合計では全ブロックとも引き続きマイナス水準での推移となっているものの、関東を除く8ブロックで、前月水準に比べてマイナス幅が縮小。特に、東北、東海、九州は3月以降4カ月連続でマイナス幅が縮小した。関東は2カ月連続のマイナス幅拡大。
- ブロック別の向こう3ヵ月（7月～9月）の業況の先行き見通しは、全産業合計では、引き続きマイナス水準。しかしながら、前月に引き続き、北海道、東北を除く7ブロックで、昨年同時期の先行き見通しと比べ、マイナス幅が縮小または横ばいで推移しており、比較的明るい見方をしている。

ブロック別・全産業業況DI（前年同月比）の推移

	14年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7～9月
全 国	▲ 60.4	▲ 63.1	▲ 54.4	▲ 49.7	▲ 50.4	▲ 48.1	▲ 36.7 (▲46.5)
北海道	▲ 52.0	▲ 48.1	▲ 34.6	▲ 41.8	▲ 43.3	▲ 40.8	▲ 42.4 (▲38.3)
東 北	▲ 65.7	▲ 67.6	▲ 65.7	▲ 59.2	▲ 55.3	▲ 51.8	▲ 44.8 (▲43.1)
北陸信越	▲ 63.8	▲ 65.4	▲ 54.9	▲ 50.0	▲ 52.8	▲ 46.0	▲ 32.6 (▲43.6)
関 東	▲ 58.5	▲ 55.9	▲ 48.8	▲ 44.5	▲ 44.9	▲ 50.1	▲ 31.5 (▲44.2)
東 海	▲ 63.4	▲ 69.0	▲ 62.6	▲ 48.9	▲ 43.7	▲ 43.1	▲ 37.9 (▲52.5)
近 畿	▲ 66.7	▲ 71.4	▲ 66.7	▲ 54.9	▲ 61.9	▲ 53.0	▲ 42.4 (▲57.8)
中 国	▲ 57.5	▲ 65.3	▲ 52.7	▲ 58.1	▲ 57.0	▲ 51.4	▲ 35.6 (▲48.0)
四 国	▲ 58.3	▲ 70.2	▲ 61.1	▲ 53.9	▲ 57.3	▲ 52.6	▲ 44.2 (▲44.2)
九 州	▲ 54.5	▲ 60.5	▲ 44.2	▲ 42.7	▲ 42.6	▲ 40.0	▲ 30.5 (▲42.8)